

いきいき
まえばし人



ジュニア上毛賞文学賞で最優秀賞
栗原 正明さん・8歳
山王町二丁目

季節の薫りをリズムに乗せて

上毛新聞社が主催する第6回ジュニア上毛賞・文学賞の俳句部門、ふたばの部（小4以下）で、最優秀賞に輝いた。

「最優秀賞を取るぞと思って頑張ってきたので、すごくうれしかった」

前回は優秀賞。これでさらに創作意欲がわき、昨年1年間で詠んだ句は1,200句を超える。

「お姉ちゃんが詠んでいるのを見てやってみようと思った。5・7・5のリズムが楽しい」

俳句を始めたのは5歳のころ。図書館から俳句の作り方の本を借りてきて独学で始めた。今も季語の本で勉強するなど努力を忘れない。

「家族と一緒に遊びながら作ることもあるんだ。思い付いたら忘れないうちにすぐにメモしてる」

昨年からは俳句日記を付け始めた。出来た句には得意の絵を添える。題材は出掛けたときの景色や身近で感じる季節など。1句思い付くと次々と言葉が浮かんでくる。布団の中で思い浮かんで眠れなくなったことも。

「いい句を作ると先生に褒めてもらえる。それで、やる気がどんどん出てくるんだ」

現在、山王小3年。音楽と図工が得意科目だ。学校が大好きで、放課後は友達と鬼ごっこや滑り台などで元気に遊ぶ。

「俳句の勉強を続けて、たくさんいい句を詠みたいな」

「つこりと目を細めながら話す時の奥がキラリと輝く。これからの鋭い感性を生かし、個性あふれる俳句を詠み続けてほしい。」

クローズアップ



街中をみんなでそぞろ歩き

3月28日、「春待ち桜・おぼろ月夜にそぞろ歩き」を開催。この催しは、早咲きの桜を見ながら街中を散歩するイベントです。臨江閣では、能楽師・下平克宏さんの講演や市民による仕舞の披露、源氏物語の朗読などが行われ、大勢の人でにぎわいました。



身近な春見つけたよ

嶺公園で3月29日、市民による自然環境調査「みちかな季節かんじ隊」の参加者を対象に観察会を行いました。16人の親子連れらが野鳥や植物を観察し、調査のポイントを確認。芽吹き始めた木々に春の訪れを感じていました。



地域密着の市保健所に

4月4日、市保健所で業務開始式を行いました。中核市への移行は県内初。隣接する保健センターと併せて保健衛生業務を担当します。式典後、約30人の関係者らは食品衛生検査施設などを熱心に見学しました。



わたしたちの
学校
ニュース



一中

何事にも全力投球

一中は昭和22年に開校し、創立63年目を迎える歴史と伝統のある中学校です。卒業生は2万5,120人。わたしたちの学校の自慢は、何事にも全力投球で取り組むことです。

中でも、部活動への取り組みは誇れます。屋外では、限られた校庭で場所を譲り合って、効率的に活動しています。体育館でも、曜日ごとに使える日を決めて練習。多くの部活動が同時に練習するには決してベストな環境ではありません。



工夫し譲り合い練習



輝く6本の優勝旗

中学生連総合体育大会で野球部、水泳部男子、駅伝部男子・女子が優勝。県の中学生連総合体育大会でもバレーボール部女子、水泳部男子が優勝し、合計6本の優勝旗を勝ち取ることができました。ほかにも多くの入賞があり、関東大会、全国大会へ団体・個人が駒を進めることができました。この限られた環境でも、勉強と両立しながら好成績を残すことができたのです。何事にも一生懸命に取り組むことができる一中生は本当に素晴らしいと思います。

これからも、それぞれの高い目標に向かって全力投球で取り組んでいきます。

前生徒会長 福田 香菜さん